

島の元気を応援！

人口減少時代を迎え、島から元気が消えてしまうのが心配です。

「かごしま・島交流の会」は、離島人口及び離島面積が1位、有人離島数が4位という鹿児島島の島々の移住・交流をネットワークする活動を行っています。

豊かな産物と美しい自然の地域資源・観光資源を生かして、各島は熱心に活性化の努力を進めていますが、地域格差の拡大と国際化の荒波は否応なしに押し寄せてきています。そんな時代だからこそ、島民や島出身者は島を元気にしたいという思いをますます募らせているのではないのでしょうか。

私たちは島々を応援したいと思い、島が元気になるきっかけになればと本企画案を考えました。

1 まず、島を知ってもらおう！ ファンを増やそう！

1. 観光・交流の促進

都市圏との交流を活発にする中で、グリーンツーリズム・ブルーツーリズム等のエコツーリズムを地道に推進するとともに、滞在型の観光メニュー作りや子ども留学制度を充実させましょう。

島にしかない見処、味わい処を知ってもらう。農業・漁業体験、オーナー制、温泉セラピー、焼酎蔵巡回、漁師飯・郷土料理体験、各種工房体験など。海岸清掃・うみがめ保護など社会貢献活動。他にもいろいろ。

鹿児島島本土、種子屋久、奄美群島等と合わせた広域の交流・周遊ツアーを推進する。

外国人旅行客の積極的な受け入れ態勢を整備する。リピーターを増やすため「島クーポン」を導入する。

2. 特産品など島のPR拡大

鹿児島の島々は、都市の消費者にとって魅力いっぱいの島。南の島を大いに発信しましょう。

まだまだ目立たない島の農産物、海産物等特産品を知ってもらう。

かごしま遊楽館などの施設を活用し、物産展や商談会等のイベントを開催して島をPRする機会を増やす。



移住・交流・観光



2 ネットワークを広げよう！ 島へ人を呼び込もう！

1. 島ポータルサイトの開設

携帯の普及でネットワーク機能が拡大したインターネットは、低コストで高い効果を得られる必須アイテムです。島のポータルサイトを充実・発展させましょう。

「島を元気にする」をコンセプトに、コミュニケーション機能等を備え、携帯版も必要。

島々の移住/交流/観光の受け皿情報を充実させ、他メディア等との連携なども多様に展開する。

2. アンテナショップ「島カフェ」の開設

都会で島出身者が集えるショップが出来れば、島人以外の都市市民との交流が拡大し、島ファンのネットワークが形成されるでしょう。

物産の販売とともに、都会の消費者のニーズを掴むアンテナショップ機能を充実させる。

カフェのスペースや焼酎バーなどを設け、ネットワークをつなげる交流機能をめざす。

3. 島ライブなど、島外でのイベント活動促進

沖縄や奄美の島唄は、都会の若者をひきつける魅力がいっぱいです。音楽などアートは、誰にでも共感を持ってもらえます。島のアートの力を活用して、島の元気をアピールしましょう。

島出身者や愛好者を中心としたアーティストによるライブ活動を行なう。

島人と都市市民が交流できる仕組みを作り、島ファンのネットワークを広げる。

4. Uターン・Iターン促進

移住のポイントは仕事と住まいですが、仕事探しは住居探しより更に困難です。若者のUターンや島出身者のIターンを促進するため、定住や長期滞在促進へきめ細かなコンシェルジュ(=世話すること)活動を進めましょう。

仕事を創造する起業塾活動を推進し、島企業へのインターンシップ制の導入で、若者世代を呼び込む。

移住者と地元の交流を進め、社会貢献活動への参加増を背景に、移住コンシェルジュの人材を育成する。

定住へのステップとなる長期滞在型の交流・体験施設を充実する。

都会の「島カフェ」を活用して島情報を発信し、都市圏と島との交流活動を活発にする。

島から都会へのパートナー探しツアーを実施する。(婚活セミナー&移住セミナー)



3 切り口を変え、地域を盛り上げよう!

1. 地域FM局の開設

いま人気のコミュニティ放送局は、地域を盛り上げる最高のツールです。県内に6局(まもなく7局)ある地域FM放送が島内にもあれば、島民同士や島外との交流が深まります。ラジオは影響力の強いメディアであり、ストーリーミングやビデオ配信等の新技術により全国規模の宣伝も可能です。島を元気にするラジオを始めませんか?

「島を元気にする」をコンセプトに、島のさまざまな今日を、全島民参加により低コストで放送する。

- ・ 島民が主役の島ニュース、行政や各集落の情報、イベント情報、リサイクル情報
- ・ 島のアクセス・宿泊など観光・トラベル情報、島の歴史・文化・産業情報、移住者紹介情報
- ・ 「島の食」グルメ情報、農産物・海産物・焼酎等特産品などの生産現場の情報
- ・ 民謡、ダンス、スポーツ、マリンレジャー等の関連情報

など、コンテンツはいろいろ考えられますが、最初はシンプルにスタートしましょう。(開局費用等概略は別紙)

他の地域コミュニティ放送局と連携し、相互放送する番組を行なう。インターネットを最大限活用する。

地域の問題を共に考える場が提供できる。地域社会を支える防災機能を持つこともできる。

2. 離島の問題を解決するための連携活動

コミュニティ放送局は島を元気にする起爆力を持ちますが、更にパワーアップするためには各島々の連携が必要です。離島の置かれた状況を改善するために、様々なアイデアを考えて実行し、地域を盛り上げましょう。

離島の海空交通料金の値下げや人口減少対策を考える。

水上飛行機等を活用して島の遊覧飛行を行なう。

奄美群島・十島と種子屋久・三島を結ぶ航路を開設する。

未来の知識産業創造と人材育成のため、大学等研究機関を誘致し、コンベンション機能を高める。

かごしま・島交流の会 ホームページ

<http://shimakouryu.iju.jp/>

E-mail shimakouryu@iju.jp